

平成29年度 有料道路コンセッションの取組状況（概要）について

I. 事業報告

(1) 交通量

○8路線全体の交通量は、前年同期比2.9%増加
(6,576万台(H28)→6,765万台(H29))

○特に中部国際空港連絡道路、衣浦豊田道路、名古屋瀬戸道路で好調な伸び

(2) 料金収入

○8路線全体の料金収入は、前年同期比2.6%減少（事業開始(H28.10)に合わせて一部路線で料金割引を実施した影響

(17,222百万円(H28)→16,773百万円(H29))

○料金割引実施後のH28下半期とH29下半期では、1.7%増加

(8,104百万円(H28)→8,240百万円(H29))

(3) 収支状況

○計画上の収支構造として、運営権対価分割金を元利均等払いとしている点も踏まえ、約30年の期間全体で収支の採算を取る仕組みを採用。安定的な経営に向け、事業前半で収益をあげる想定

○H29年度の収支実績

・公社の償還準備金繰入は25億円

・愛知道路コンセッション株（以下「ARC」）は当期純利益3.3億円を計上

【評価】

・衣浦トンネル、衣浦豊田道路、猿投グリーンロード及び名古屋瀬戸道路の4路線で実績料金収入が公社の計画料金収入の6%を超えており、契約に基づき需要変動による調整を実施

・公社の償還準備金繰入は計画を上回る実績であり、償還は順調

・全8路線で公社の計画料金収入を上回る結果に加え、維持管理費削減等の効果等もあり、安定的な経営に向け利益を確保し、概ね計画どおり運営

II. 主な取組内容

(1) 通常時や災害時等における維持管理・運營業務

○公社運営時と同様の管理水準、サービス水準を確保

○不測の事態に対しても、公社と連携し迅速かつ適切に対応

例) 台風、逆走事故等への対応（写真右）

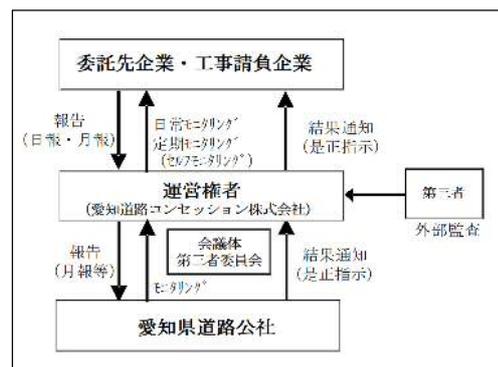
○今後ARCが経営計画においてKPI〔重要管理指標〕と数値目標を設定(H30年度予定)

(2) モニタリングの実施による要求水準の確保

○公社が要求する水準（要求水準書）の達成状況等を確認するため、モニタリングを実施

○会議体や中立的な立場の第三者委員会による確認

○モニタリング結果を踏まえ、公社から改善措置を指示



【評価】

- ・業務全体で公社が要求する水準を充足しており、年間を通じて適切に業務を遂行
- ・維持業務（路面清掃、除草）で第三者被害（飛石等）が発生し、修繕業務等で交通規制の面で一部不適切な点が見られたため再発防止を指導。
- ・運營業務で公表した決算書と公社への報告内容に齟齬が生じ、ペナルティポイントを付与、再発防止を是正指示

（3）民間の創意工夫による取組

- モバイルカメラを活用したテレビ会議システムを導入
（写真右）

- ・現場の点検作業者と事務所の責任者がリアルタイムで繋がり、被害状況の早期把握や本社のバックアップが可能

- コンクリートポンプ車を改良し、点検ロボットとして活用
- 1 DAYチケット（1日1,000円乗り放題）を発売し利用促進

- 地元企業・団体等と連携した地域産品PRイベントの実施
（観光PRイベント始め計19回）

- 大府・阿久比PAリニューアル工事実施
（H30.7.18オープン）



【事故発生時の事務所内映像】

【評価】

- ・1 DAYチケットの利用者アンケートを実施し現状把握に努め、今後の利用促進及び利用者サービスの取組に向けて着実に展開
- ・地域産品PRイベントを積極的に実施し地域交流を深め、地域の活性化へ向けて着実に展開
- ・建物の設計・デザインを世界的建築家が監修、また、日本を代表する3人のシェフの監修による地元食材を使ったメニューや土産品など、地域の魅力溢れる施設を展開



【1 DAYチケットチラシ】

Ⅲ. 今後の課題及び取組予定

（1）今後の課題

- 公社⇄ARC間のリスク分担に係る費用負担の協議
 - ・例）降雪（不可抗力）への対応に要した費用分担の協議
- 任意事業（提案内容）の実現性

（2）今後の取組予定

- 有料道路コンセッション事業に関する情報発信の強化（「見える化」）
 - ・H29年度事業報告を公社ホームページで公表
 - ・KPI（重要管理指標）と数値目標の設定、ISO55001の認証取得（ARC）
- 愛知モデルの普及に向けた取組
 - ・全国の自治体・公社担当者を対象とした現地見学会の開催による普及啓発
- 任意事業（提案内容）の具体化に向けた調整